



ふれあい通信

第一七七回史跡ウォーク チーム葵

「逢坂関から山科奈良街道へ」

豊臣秀吉により京への街道として東海道が整備され、江戸期には大いに栄えました。

現在は、国道一号線が拡幅整備され重なるように高速道路、JRが通る要衝となり、往時のように一息つける隙間もありませんが、時代を遡ると街道沿いには名物の茶店をはじめ、大津絵、算盤に縫い針の小売店などが軒を連ねていました。

中でも安藤広重の浮世絵にも登場する走井の名水と、名物の餅を食して一息つき、古の歌人に愛された逢坂峠から続くこの街道の話題で寛いだことでしょう。

しかしながら、交通形態が変遷、道路拡幅により移転を余儀なくされ変わる風情を惜しんだ橋本閑雪が寺院として保存した歴史ある甍も今では無住となりましたが、今も残る小さな史跡に思いをはせて歩きましょう。

●日時 十一月二一日(日) 受付九時～九時半

●集合 京阪京津線 大谷駅前

●コース 逢坂関跡～うなぎのかねよ

●蟬丸神社～旧東海道線トンネル碑

●月心寺～追分～音羽分水紀功碑

●若宮八幡宮(解散)

●会員の皆様へ

チーム葵の会員は八時に、その他会員は八時半に集合をお願いします。

安藤広重の東海道五十三次に描かれた大津宿。米俵に炭俵が行き交い、走井の湧水と名物の走井餅で一服。

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



大津絵

チーム葵 澤田 卓

芭蕉の句に「大津絵の筆のはじめは何仏」があり、元禄時代から大津絵が旅の名物として認知されていたようだ。

しかし、本願寺が徳川家康の時代に東西に分かれて、教如上人に現在の東本願寺の敷地が与えられることになり、本願寺門徒をはじめ門前町で仏像絵を生業としていた絵師たちは、大津をはじめ、大谷、追分への移住を強制されることとなり、本願寺も遠くなり絵師としての売り上げを仏画以外にも求めなくてはならないこととなったようだ。

こうして仏画の他にも美人画藤娘、念仏に帰依した鬼また提灯と釣鐘を担ぐ猿など、形は似ていても重さが釣り合わない身分不相応な皮肉、瓢箪から駒が勢いよく飛び出る冗談を描くなど、ピンチを乗り越え商いを成長させていったという。

それも東海道の難所にあつて、整備された車道、一息つける茶屋や名物店とも相まって土産の一つとして成功したのではないかとと思われる。

現在の逢坂関や大谷、追分には国道の拡幅や路線変更で今も残る旧街道に繁栄の過去は窺い知れないが、権威の象徴としての狩野派や琳派の雄大で繊細な技巧には程遠く、江戸

浮世絵の趣とも

異なりパロディ

溢れるまさに一

般庶民に支持さ

れた絵画の歴史

がこの街道に栄

えたことに感慨を覚えます。





熊野摩崖仏

チーム雅 谷口洋子

先日、大分県国東半島にある「熊野摩崖仏」を訪れた。

専用駐車場からはかなりの登り坂で、だんだん息が荒くなり、脚には疲労がたまってくる。拝観料を払い、石仏はどこだろうかとキョロキョロしていると、説明書を渡され、「ここから始まりですよ。がんばって」と杖を持って行くよう勧められた。

坂道をしばらく行くと、切り出された石で築かれた石段に変わる。その石段をまだかまだかと登りながら見上げると、石段の先に小さく鳥居が見えた。遠くに感じたが、目標がみつかった。少し元気が出た。それも束の間。鳥居までたどり着くと、今度は、ゴロゴロした自然石の乱積石段が天にも届くかのように続く。これこそが、鬼が一夜で造ったという伝説の石段だ。もはや冷汗だった。

「日本一雄大荘厳な熊野摩崖仏」と看板が示すとおり、高さ八メートルの不動明王像とその脇には六、八メートルの大日如来像が巨岩壁に刻まれている。石仏は伝説では七十八年に造られたと言われているが、記録には一、二二八年の造設とあるとか。



『驚き、桃の木、明治の記』⑧徳川慶喜(後編)

チーム葵 今川博明

徳川慶喜、最後の紹介です。

彼の好物は元将軍らしく、西洋料理の富士見軒(関東大震災で廃業)、永坂の更科蕎麦、「ハヤマ」の富貴豆、お菓子は風月堂の洋菓子でした。また、静岡で水揚げされる魚も好きで、刺身はマグロか白身、煮つけはカレイがお気に入りだったといひます。変わっていたのは、味噌汁に砂糖を入れるという趣味があったそうです。一方日曜日の朝はバタートーストと紅茶と決めていたそうです。将軍の座に就く以前から洋食を好み、「豚一」というあだ名で呼ばれていたこともあり「豚一」とは、「豚を好んで食する一橋」という意味です。彼は子作りも元気で、正室の美賀子との間には生後五日で夭折した女子がいるのみでしたが、二人の側室新村信と中根幸との間には、明治になって一〇男一女、合計二一人もの子供を産ませています。彼が静岡から再び東京に帰ったのは明治三〇年で、巢鴨、そして小石川の屋敷で静かに暮らし、一六年後の大正二年、風邪から肺炎を誘発し、七七歳で衰弱死しました。歴代徳川家の中では最長であり、二番目は家康の七三歳です。

因みに彼の墓は、徳川家の菩提寺である増上寺でも寛永寺でもなく、谷中霊園にあります。それは明治天皇から華族を親授された感謝の意を示すため、慶喜は自分の葬儀を徳川家が代々行ってきた仏式ではなく神式で行なうよう言い残したからです。さらにお墓の形も皇族と同じような円墳でした。これは京都の歴代の天皇陵が質素であることを見て感動したためと言われています。

佐久間象山と勝海舟

チーム雅 島田 宗人

二人の出会いは、嘉永三年(一八五〇)勝が西洋砲兵術を学ぶために、象山塾に入門したことに始まります。

嘉永六年のペリー来航に際し、阿部老中はアメリカ大統領の国書に対する策を、広く朝野に求めました。旗本小普請の勝も意見を上申します。内容は、**堅艦・大船の建造、江戸湾の防備、洋制軍隊の編成**など、西洋実学を取り入れて海防を築く、象山の思想を受け継いでいます。更に勝独自の見識も盛り込まれた上申は、幕府の海軍創設に繋がる建言でもありました。後の坂本龍馬の「**船中八策**」の中にも、海軍増強が表出されています。日本海軍は、象山から勝海舟、龍馬に引き継がれ明治の黎明期を迎えました。

象山は海軍設置を念願する余り、自らを海上で国を護る船に例えて、書齋を「**海舟書屋**」と名付けました。勝の「海舟」の号は、象山から自筆の扁額を譲られたことによります。吉田松陰密航事件に連座して蟄居を命じられた象山は、勝に海軍の建設を委ねました。勝は同時期に、先の意見書が幕府に認められ、「**長崎海軍伝習所**」に入所して、船艦の操練と西洋兵学の修得に励みます。

後年勝は象山を『**氷川清話**』の中で辛口の批評をしています。象山の学問には一目も二目も置いていませんが、勝には徳川の世から新政府へ移る局面で日本を先導した自負があり、功成り名を遂げた晩年、皮肉交じりに象山を語っています。妹婿の象山に兄貴風を吹かせたのかもしれませんが。一方で象山没後、著書の発刊、顕彰碑の銘文撰、子息恪二郎の後見などにも身を尽くしています。

京都の地味な話(十一月史跡ウォークに寄せて)

「蟬丸の謎―勝手な考察」

チーム彩 奥西 不二

蟬丸を祀る蟬丸神社は京都市ではなく大津市にありますので京都の話ではありませんが、山科と大津をつなぐ東海道の要所にあります。その蟬丸とは何者なのか。

これやこの行くも帰るもわかれては

知るも知らぬも逢坂の関 (蟬丸)

『後撰和歌集』巻十五・雑一

一〇八九↓『小倉百人一首』

カルタ取遊びの坊主めくりでは爆弾札らしいのですが、それはさておき蟬丸は勅撰和歌集に選ばれているからには、それなりの血脈と身分のある人物であると想像されます。醍醐天皇の第四皇子とか宇多天皇の皇子・敦実親王の雑色とも、光孝天皇の皇子とも、仁明天皇の第四宮、人康親王と同一人物とも。普通であればそれなりの身分と地位が与えられた存在だったと思います。だが例えば母親の身分が大変低かったとか、生まれつき身体的に普通では状態：例えば盲目とか。それで蟬丸の名を与えられ、四ノ宮の地に隠れ暮らしとなったのではと勝手に決めつけてみました。その蟬丸は琵琶(琴とも)の名手で醍醐天皇の孫の源博雅が三年間通い詰めて秘曲を伝授されたとか。また世阿弥によって能では姉の逆髪(謎めいた女性ですが)と別れのシーンを演じます。普通の感覚では幸せな人生ではないですね。ではなぜ神になったのでしょうか。

世を恨んでいたであろうという人物は神になる、怨霊神です。特別の霊力がありその霊を

慰め尊ぶと悪霊から護ってくれるのです。菅原道真はその代表的存在です。王権の世界から捨てられた蟬丸もその一人かなと勝手に考えてみました。

もっと不思議なことに蟬丸は仙人だったという話もあります。それはともかく謎は謎のままに、昔の人は楽しんだのでしょうか。

蟬丸神社は天慶九年(九四六)蟬丸が祭神として祀られました。社殿ができたのは江戸時代になってからです。関蟬丸神社上社と関蟬丸神社下社は、もとは地主の神々を祀られていたと思われます。いつのころか猿田彦の命や豊玉姫が祀られ、街道の安全を守護するために蟬丸が神として合祀され、また蟬丸が琵琶の名手であったことから後に芸道の神として崇敬されることになったのではないのでしょうか。これは江戸時代になってからだと考えていますが。カルタで有名になったから？

中世まで逢坂山は急峻な場所でも人馬の通行は困難だったらしいです。近江から京都へは尾関越えで山科四ノ宮を経由するか、山中越えで白川に出るのが一般的の路だったそうです。江戸期には順次開削が進んで、明治期には大規模な開発が行われました。

逢坂山を詠んだ歌には他に。(逢坂山関所跡の案内板の近くに石碑があります)

名にしおば 逢坂山のさねかずら 人に知られでくるよしもがな (三条右大臣)

(さねかずらは関蟬丸神社下社で栽培されています)

夜をこめて 鳥のそらねをはかるとも

よに逢坂の関はゆるさじ(清少納言)

地味なところですがぜひ十一月のウォークに参加してみてください。歌の印象とは少し：。雑ばくな話で申し訳ありませんでした。

お知らせ

★ 第一七八回ウォーク 十二月一九日(日)

紫野界限の史跡を巡る チーム華

千本鞍馬口付近に集合 上品蓮台寺や

船岡山などの史跡を訪ねます

★ 第一七九回ウォーク 一月二三日(日)

旧鞍馬街道を歩きます チーム雅

叡山電鉄「京都精華大前駅」から

額縁門の圓通寺や深泥池を訪ねます

★ 第四回 京都史跡ガイドの無料研修

・ 一月二三日(祝) 一三時半〜人まち交流館

・ 二月五日(日) 九時半〜一一時半

一七八回ウォーク下見コースの実技見学

★ 秋の平城京跡と西大寺ウォーク

研修企画 今井 満

現在平城京跡では、大極殿の復元工事が進み聖武天皇の見た「青丹よし奈良の都」が徐々に姿を現わしています。

この平城京跡から西大寺を、専門ガイド島田宗人氏が、一月二六日(金)に約5時間わかりやすくご案内します。

集合場所は、近鉄西大寺駅中央改札口に午前一〇時、大極殿・東院庭園・朱雀門・遣唐使船・西大寺等。申し込み今井 090 - 5362 - 8981

また mitsuru_imai@ku.biglobe.ne.jp 11月一五日までに連絡ください。弁当持参。

★ 冬季ガイド研修会のお知らせ

研修企画 今井 満

京都史跡をもっと知りたい新規会員や更に知識を深めたい会員・賛助会員の研修です。

● 二月二五日(土) ひとまち交流館第二会議

室午前九時半から一一時 講師 富永正治

● 三月三〇日(日) ひとまち交流館 第三会議

室午後一時半から三時 講師 奥西不二

※研修内容は、後日に案内します。

面白発見

京都にあった伊能忠敬の本初子午線

チーム雅 秋房 麻理

JR二条駅の西にある月光稲荷神社。街中の小さな神社ですが、実はここに寛政七（一七九五）年頃から江戸幕府により寛政暦への改暦のための天文台「京都改暦所」が置かれました。

天文学は天体観測で正確な時刻を確定し、正確な暦を作ることを目的とし、ここにもそのために改暦所が置かれたましたが、右京は低湿で湿気が大変多かったため、早くも寛政十年には改暦所は廃止され、約千五百坪の用地は当時の瓦師丁（神泉苑の南）の五名の住民に払い下げられました。この神社は守護神として武信稲荷神社より勧請分神されたものです。ちなみに有名な伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」では日本の本初子午線の基準をこの京都改暦所にしてあります。ほんのわずかな間の話ですが、まさに「地図に残る仕事」です。



第一七六回ウォークの結果

チーム彩 渡辺 高志

長らくのコロナ感染症による緊急事態宣言がようやく解除され、度々延期されていた例会がやっと開催の運びとなり、当日明け方から降っていた雨も参加者受付開始時には止み、坂本の清々しい佇まいを歩くにはベストコンディションとなり、参加者七三名が七組に編成され順次元気にスタートする事が出来ました。

今回の前半コースは伝教大師最澄が遷化され、千二百年。その生涯をひもとくゆかりの寺を巡り、続いて後半は北国街道に接合する坂本の城下町を今ではその痕跡がほとんど見えない、条理地割、縄張りを探る探索し戦国の世に思いを馳せました。

又、城跡公園では『坂本城を考える会』のガイドの皆さんにもお世話になり、交流が出来たのも収穫でした。メンバーの中にはゴール地点の盛安寺、高穴穂神社は初めて訪れたと感激されていた方もおられました。例会としては距離の長い歩行でしたが、心地良い疲れと達成感を得られた一日となりました。



二条城のガイド研修

企画研修 今井 満

一〇月一六日、コロナで順延になった二条城でのガイド研修を行いました。

一八名の参加があり、足利・織田・豊臣・徳川の歴代の築城歴史や御殿・庭園など施設の説明に足らない処は、ベテラン会員が補う充実した二時間を過ごしました。

今後も色々な興味を惹く研修を企画しておりますので、ぜひ足をお運びください。



安全第一！

先日の史跡ウォークにおいて、参加者が、転倒負傷する事案が発生。指先から一部出血もありましたが、幸い近くに商業施設、元看護士の会員が居て事なきを得ました。当協会は保険加入しているものの、参加者は高齢者も多いことから一層の安全に努めましょう。